

2023、7、8

## 直方ミニバスケットボールクラブだより

## 共育コラム

## 卒業生の成長の姿が小学生のモデルとして



&lt;モデルとなるOBの参加が、子どもたちの励みに&gt;

## 中学生

今年3月に小学校を卒業し、4月から中学校に入学した子どもたちも、もうじき1学期を終えます。4月当初は多くがOBとしてもどってきて練習に参加してくれていましたが、このところ参加状況は落ち着いた感じです。それぞれ入部した部活動や中学校生活に励んでいるのだと思います。また、初めての定期考査及びその準備期間を経験し、中学生としての生活リズムで動き始めているのだと思います。

それでも、時折もどってきて子どもたちといっしょに汗を流してくれる子もいて、小学生にとっては、とても励みになっています。同時に、3月までいっしょに活動していた先輩が思春期を迎え、心身ともに飛躍的に成長を遂げていく姿を目の当たりにできることは、自分の将来像をイメージするのにも刺激になっています。

## 高校生

5月には、今年度高校に進学したOBが数名、練習に参加してくれました。クラブでバスケットを続けている子、勉強に専念している子、バイトで社会経験を積んでいる子、それぞれです。直方クラブ時代、いっしょに活動したメンバーが、今はそれぞれの高校に進み自分の進路を歩みながらも、つながりを持ち続け、時折こうして顔を出してくれることをうれしく思います。高校生になると、人としてまたひとまわり成長した姿を見せてくれます。気遣い、気くばりなどを覚え、表情も対応のしかたも、一歩社会人に近づいた感じで、たのもしく見えます。

時折訪れて小学生のよきモデルとしていっしょに汗を流してくれる卒業生の姿が、私にとっても大きな励みになっています。

## 大学生

6月には、大学生になった子が、突然寄ってくれました。今年大学に進学したばかりで、福岡市からの帰りか「体育館の前を歩いて帰っていたら練習してたんで、寄りました…」と。会うのは小学校卒業以来だだと思います。小学生のときは、センスがありプレーのうまい子でしたが、少し気

の弱いところがあり消極的になることがあり、「積極的に…」とよく声をかけていました。中学、高校ではバスケットではなく、別な部活動をしていたそうです。今年大学受験に合格し、4月から福岡市の大学に通っているとのことでした。

しばらく小学校の練習を「懐かしい」と言って見て帰りました。帰るときに、子どもたちを集めて「みんなの先輩だよ」と紹介をしました。本人もあらためて自己紹介をしたのち、小学生に「がんばってね」と言葉をかけて体育館を後にしました。臆することなく小学生に向けて言葉をかけている姿を見て、たのもしくなったなあ…と思いました。小学生のときは、恥ずかしがり屋で、人前で話すのがすごく苦手な子でした。どうしても言わなければならないときは小さな声でしか言えない子だったので、成長ぶりに驚くと同時にとてもうれしく思いました。

人は、一つ一つのことを経験し、その積み重ねで成長していくものですね。経験のなかには、本人にとっていいことも、しんどいこともあるでしょうが、その両方が成長のエネルギーになります。そして、そのなかには、小さなことでもいいので、必ず成功体験（自分で納得のいく体験）が必要で、それが自信になり自尊感情の高まりにつながります。

## 社会人

6月後半には、社会人になった子が久しぶりに立ち寄り、子どもたちといっしょに汗を流してくれました。そのなかの一人は、以前コーチを務めてくれていました。現在も市内で医療事務に従事しています。あと、途中転校した二人（きょうだい）の子も参加してくれました。思春期を迎え、心身の成長・変化が加速する中学生の頃、引っ越しや転校など生活状況に変化がありましたので、少し心配していましたが、上の子は、すでに社会人として、下の子は高校でしっかりがんばっているとのことでした。

さらに、つい先日は、植木クラブ時代の教え子に再会することができました。直方北小学校でPTAのバレーボール大会があるということで、クラブの後、数日間バレーの練習が行われていました。たくさんの保護者の方が来て汗を流されていました。そこに参加をしていました。もう約30年前の子ですから、私の方からは気づけなかったのですが、向こうは「気づいてましたが声をかけづらくて…」と書いていました。私が20歳代後半にかかわっていた時の子で、相当激しくやっていた最後の子ですから無理ありません。つないでくれたのは、現コーチでした。ほぼ同じ年代で、現役時代よく対戦もしており、親しい関係にもあったようで、引き合わせてくれました。

## 出会い、学び、つながること・・・

私はミニバスケットの指導に携わるようになってすでに40年を経過しています。はじめの子のなかの一人は、現在、他のクラブでコーチ陣の一人として子どもたちの指導に携わっています。仕事の都合が合えば、合同練習の時、いっしょに活動しています。その彼ももうすでに54歳ではないかと思います。

長く携わるなかで、子どもたちからたくさんのことを学ばせてもらっています。今の私が最初から存在していたわけではありません。変わり目は、1993年度下境クラブの立ち上げからです。子どもに変わる（成長）を求め続けていますが、それは私が自分自身に問うていることでもあります。

ます。成長は子どもだけに求められるものではありません。私たちおとなも同様です。昨年度からおられた方には、すでに紹介しましたが、昨年の6年生が残してくれた貴重なことばがあります。



・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＜昨年度の『クラブだより』より＞

10月23日（日）男子の高学年を中心としたミーティングのなかで、6年生が学校生活に困り感をもっている子に語ってくれたことばです。

自分も以前は、いやなことから逃げて、みんなに迷惑ばかりかけてきた。自分は心が弱いところがあって、すぐはらかいたり、あきらめたりすることがあって…。

でも、自分には大好きなものがあって、それがバスケットだ。このままだったら、大好きなバスケットができなくなる、変わらないけんと思った。でも、思ったからと言って、そう簡単に変えられるものじゃない。時間はかかったし、今も完璧じゃないけど、ようやく今の自分にまでなってきた。それは、この間、ずっと自分を応援し見守ってくれた人がいたからで、自分一人の力では変わらなかった。それに、あの頃の自分だったら、普通はみんな、かかわらんごとしようと思うと思うけど、でも自分を見捨てずにかかわってくれた友だちや先生がいてくれた。だから変わってこれた。自分一人ではなんともならんときもある。そんなときは、自分一人でなんとかしようと思わんで、だれかにたよったらいい。自分たちにたよってくれてもいい。できることは、自分たちもするから…。ただ、ずっとたよりばなしではだめで、自分も努力しようとするのが大事。それは忘れんで…。

人は自分一人では変われんけど、支えてくれる人、応援してくれる人、かかわってくれる人がいたら、必ず変わる。だから、自分を支えてくれる、応援してくれる、かかわってくれる、その人たちを大切にしないとイケない。人は必ず変わる（成長する）ことができる。

感情を高ぶらせるわけでもなく、とつとつと語ってくれることばに、私も聴き入っていました。この発言を皮切りに、6年生が一人ひとり、自分の経験（失敗やつまずきも含む）をふまえて、ことばをつないでくれました。

・・

このことば、私自身にとっても貴重なものとして常に胸にとどめています。同時に、学校生活でつまずいている子にも届いてほしい思っています。極力、子どもから子どもに伝えながら、子どもどうしの関係のなかで子どもが変わる（成長する）ことをサポートしていきます。つまずいていることに気づけていない子もいますので、そこは私の方からもアプローチしていきます。

### もう一つの再会

最後に、この6月もう一つの再会がありました。初任校（感田小）のときの最初の教え子です。年賀状のやりとりは続いていて、いつかいっしょに食事でも…と誘いはあったのですが、それでも今回会ったのは、その子の結婚式以来です。「先生〇〇君が福岡市で店を開いたので、そこで呑みませんか」と誘ってくれました。集まったのは、その店を開いた子と、誘ってくれた子と、もう一人。そのもう一人は、以前子どもが直方クラブに入っており（現在大学生）、当時は保護者でした。

その面々とは、当時、私のつれあいも同学年でかわりをもっていたので、二人で呼ばれて行ってきました。すでに50歳代はじめの年齢です。しかし、それぞれがそれぞれの道でいきいきとがんばっているのを知れて、ここでも安堵しました。それぞれ思春期前後に家庭状況の変化があり、きついときを乗り越えて今があることを知っていますので、その当時の話になると胸が熱くなり、お酒の勢いも加わって涙が頬を伝わります。でもほんとうにうれしい再会でした。今なお当時のことや私たちのことまで大切に思ってくれていることに感謝です。

## 子どもの世界

会話のなかで、「先生、今だから話せるけど…」という裏話も聞かせてくれました。今となっては笑い話ですが、当時わかっていたらこっぴどく叱らなければならなかったこともあります。しかし、子どもには、子どもの世界には、そういうものが含まれていることをおとなは心得ておかなければなりません（私たちも子ども時代そのようなことがあったように）。そのうえで、必要なきびしさは経験させるべきだし、一方で「許し」も必要です。その心の幅（ゆとり）をもちつつ子どもに向き合っていないと、とことん詰めてしまうことになります。子どもは、逃げ場をなくすと、もう一度やり直してみる、がんばってみる、という再チャレンジの力を失います。きびしく接しなければならぬ時も、ほんの少し逃げ場を残してやっておくことが必要です。

保護者会でも説明させていただいたように、クラブでは、子どもにきびしく接する必要があるときには、私（監督）の役目。コーチの二人には、子どもを励ましてやってほしい、子どもの話を聴ける立場でいてほしい、子どもに楽しさを味わせてやってほしい、とお願いしています。このところ、練習の段階（レベル）を上げつつあるなかで、少しきびしめの要求をしたり、学校生活のことできびしく対応したりするケースがありますが、コーチにしっかりフォローしてもらっています。ご家庭では、いつものように「見守り、励まし、応援」をよろしくお願いします。

## ともに変わる（成長する）・・・

子ども、おとなに関係なく、人は、「出会い、学び、つながり」によって変わります（成長します）。その歩みを、保護者の皆さんに支えられながら、今なお、子どもたちやコーチといっしょに続けることができていることをうれしく思っています。

きびしさも、楽しさも、くやしさも、うれしさも…、いろんな感情を味わいながら、人としての豊かさを育み、魅力的な人になってほしいと思っています。そして、力強く生きぬくことのできる、たのしい人になってほしいと願っています。

